

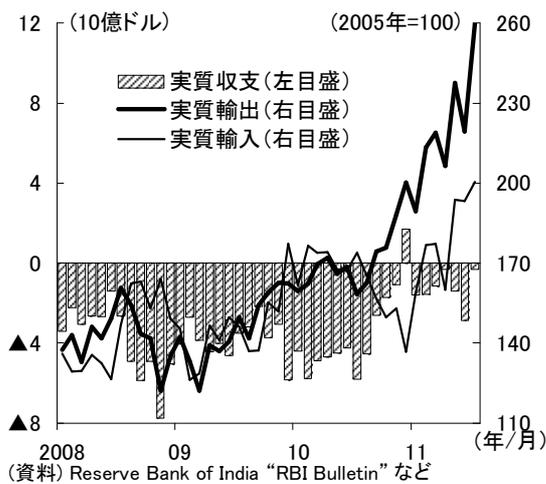


## 拡大するインド輸出

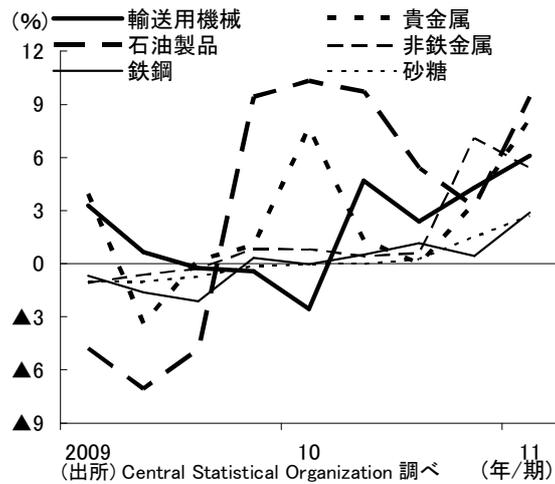
～ 素原材料から機械中心へ輸出構造の転換進行 ～

- (1) インドの経常収支赤字幅が2011年1～3月期▲54億ドルから4～6月期▲142億ドルに拡大。主因は大幅な輸入増加に伴う貿易赤字の増大。原油価格をはじめ輸入価格の上昇の結果。しかし、価格変動を除いた実質ベースで見ると、昨年秋以降、正反対の推移（図表1）。すなわち輸出がほぼ一貫してハイペースで増加する一方、輸入は限定的な増加にとどまり、貿易収支の赤字幅が急速に縮小。
- (2) 品目別輸出数量が不詳のため、主な品目別に輸出総額の前年比増加率に対する寄与度をみると、このところの増加は石油製品、貴金属と並び輸送用機械が牽引（図表2）。従来に見られなかった動き。携帯電話など自動車以外の機械機器も増勢加速の様相。
- (3) 機械機器の輸出増加は、外資進出に伴う生産拠点の拡がり原動力。そうした観点から資本流入をみると対内直接投資が本年1～3月期の48億ドルから4～6月期129億ドルへ大幅増（図表3）。08年1～3月期の143億ドル、4～6月期126億ドル以来の規模。外資流入に再び盛り上がりの兆し。
- (4) インド経済は昨年半ばから若干、調整色の拡がりが見られたものの、今春以降、旺盛な内需とハイペースで流入が続く直接投資を映じて再び活況へ。物流電力動向をみると鉄道貨物取扱高が増勢を回復する一方、電力需要量は増勢加速（図表4）。底堅い輸出が上乗せされ、インド経済は今後も実質8%成長持続の見通し。

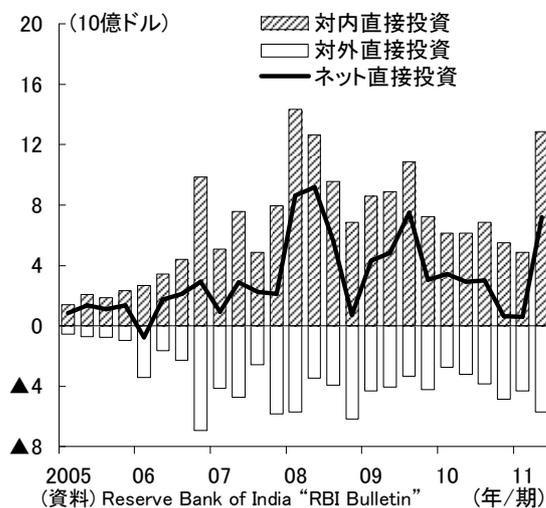
（図表1）実質輸出入と実質収支（季調済）



（図表2）輸出金額に対する主要品別寄与度（前年比）



（図表3）対内対外直接投資の推移



（図表4）鉄道貨物取扱高と電力需要量（季調済）

